



建築人

10

2017

大阪ホンマもん

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

今回取り上げる建物は大阪市内を縦断する御堂筋から淡路町通りを東に少し入るとポツンと佇んでいる「清水猛商店」だ。

建物の設計は、当主が住友銀行に出入りしていた関係で住友工作部に依頼し小川安一郎氏が担当した。建物は商家でみられる表屋造りの木造町家で、通りに面した店舗棟と後方の住居棟で構成された。一見、西洋式の鉄筋コンクリート造の近代建築に見えるが、店舗部分は木造三階建てで建てられている。竣工は大正一三年（一九二四年）で、金融業や問屋業などが多い船場でこのような看板を掲げた商家は珍しい。

大都市のビジネス街で取り残されたかに見える建物だが、現在も家業である建具や家具の製作を営んでおり、今持って通りの「顔」となっている。伝統的な町家が変化していく過程とも言える貴重な建物として見続けていたい。



建築人

10
2017

目次

2	大阪ホンマもん
3	女性分科会三〇周年リレーエッセイ 私の思い 小林美登 風に吹かれて出会い広げて 春岡須磨子
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	ひろば『今、自治体のアツイところ！』能勢町 馬瀬師彦 農村集落の景観に配慮した新たな土地利用について
10	Gallery 建築作品紹介 有田市民会館（紀文ホール・有田市図書館） 設計・監理 徳岡設計・アール企画・Spazio 設計共同企業体 施工 浅川・三谷特定建設工事共同企業体 監修 狩野忠正 家具 狩野新アトリエ 日亜化学工業諏訪技術センター 設計 竹中工務店 施工 竹中工務店
13	記憶の建築 松隈 洋 武蔵野美術大学 一九六四〜六八年 隠れた秩序が育むキャンパス風景
14	匠の巧 木製建具の匠集団 塩田木材工業有限会社
16	建築の射程 辺口芳典・溝辺直人 The Blend Inn の芽
18	理事会報告 建築相談室から 編集後記

これからの建築士会の活動について

公益社団法人大阪府建築士会
副会長 田中義久



建築物は永遠性の代表のように語られることがあるが、実は様々な変化を通じて「今の姿」に落ち着いているのである。機能主義、モダニズム等といった建築論や、確認体制や耐震設計、材料の開発などの実務的なシステムの変化、そしてそれぞれの変化に対する技術的解法も創造されて時代時代の姿を露呈し、そしてさらに今後も様々に変化をしていくのであろう。

建築士会も設立以来、社会からの要求等とその体制体質が変化してきたように思う。近年では諸々の理由で専門職不足になった行政から専門家の派遣要請が増えたり、住宅耐震診断の信頼のおける受け皿としての役割りを求められたりするものもその一つである。また、今後ますます増加が予測されるマンション大規模改修に関しても建築士会に期待が寄せられている。複数のクライアंटの代表である管理組合は、その公平性・信頼性・公開性が求められ、その技術的パートナーである建築士はそれらの条件に加え全てのクライアंटが納得する技術力を提供する必要がある、そのパートナーとしての期待が寄せられているのだ。

複数のクライアंटへの対応として、複数の建築士の派遣という形態や結果評価という体制も必要であろう。社会の要求に大いに応えることも今後の建築士会には重要なことであらうと思う。

女性分科会三〇周年リレーエッセイ

私の思い

委員 小林美登

若いころに学んだ建築への思いが膨らんでいた十五年前、我家は大きな痛手を受けました。しかし、それを機に建築士会に入会し、女性分科会シルバライフ研究会で、高齢化社会という大きなテーマをもって学んだことは大変意義あることでした。勉強会や見学会に参加しているうちに、住宅の構造や保存再生の問題にも心惹かれるようになりました。現在は、耐震部会やヘリテージマネジャー講座に学び、建築の仕事に微力ながらも関わっていることを幸いに思っています。建築と人との繋がりが、人と人との繋がりを大切にして...

風に吹かれて出会い広げて

委員 春岡須磨子

個人住宅の見学会、講師を囲んだ座談会をきっかけに女性分科会での活動が始まり、多くの出会いがありました。福岡へ転居した際も迷わず建築士会に入会し、多くの出会いがあり、様々なことに参画することが出来ました。熊本地震での地域の方々によりそった復興支援などもそのひとつです。九州での経験をお土産に再び大阪での生活が始まります。女性に特化しなければいけない時代は終わったとの考えのもと福岡県建築士会では女性委員会を無くしましたが、青年委員会と上手く融合するための手立てを怠った結果、エネルギーの軸が衰えてしまい、その反省のもと数年前に青年・女性委員会として復活しました。今、青年・女性委員会では九州北部豪雨での被災地の避難所への紙管間仕切り設置等も協力して行っています。被災地では、まだまだ支援が必要な状況です。

集まれ けんちく女子
WORLD Café「建築女子がきずく未来」
～建築・インテリアに関わる女性による
ワールドカフェ形式のグループトーク～
10/28 第一部・第二部各CPD2単位

本会女性分科会が発足から30周年を迎えたのを機に、共催4団体のご協力を得て記念事業を開催します。建築界で活動する多くの女子が集合し、異なる職域の立場から意見を発信することで、女性建築士ならではの役割を明確にして一層社会に貢献していくことを目的としています。

日時 10月28日(土) 14:00～18:00
会場 ドーンセンター・1階パフォーマンススペース
大阪市中央区大手前1-3-49

第一部 ワールドカフェ形式のグループトーク
第二部 ワorkshop報告会
基調講演
テーマ:「建築女子に期待する」
講師:伊藤明子(国土交通省住宅局長)

定員 100名(申込先着順)
参加費 第一部500円(お菓子飲み物付)・第二部 無料

申込締切 10月20日(金)

第三部 懇親会 18:00～19:30
会場 ドーンセンター・1階パフォーマンススペース
定員 100名(申込先着順)
参加費 2,500円(ケイタリングによる立食)
申込締切 10月20日(金)

国際分科会・国際茶楼(サロン)Vol.2
「上海～ヒューデックの作品を巡る～」
11/17 CPD2単位(予定)

今年7月に訪問し実地に歩きまわったものを紹介したいと思います。上海の歴史的な背景と発展する現況も見ていただきます。

日時 11月17日(金) 16:30～
会場 大阪府建築士会会議室(予定)
講師 森田茂夫
参加費 1,000円(資料代含む)
定員 30名
※プログラム終了後懇親会開催、参加費3,000円

ちょっと知りたい建築セミナー
「木製建具の知識と製作現場見学会」
11/18 CPD2単位(予定)

仕事でどのように建具を設計されていますか? その建具は、思い通りのデザインに仕上がっていますか?住空間の中で建具はとても重要です。今回は意外と知らない木製建具について、12/8に開催される第60回建築士会全国大会・京都大会で伝統的技能者賞を受賞されます塩田木材工業(株)塩田佳男氏から、建具の基本の話や複雑な格子戸の組み方、伝統的な意匠の決めごと、建築士が備えるべき知識など、実際の製作現場でお話を伺います。

日時 11月18日(土) 14:00～16:00
会場 塩田木材工業有限会社
茨木市横江1-5-15
定員 30名(申込先着順)
参加費 会員1,500円 会員外2,000円

事業委員会 青年分科会
木の学校2017「木で人を幸せにする」
11/18 CPD3単位(予定)

今回は「木の良さを伝える」をテーマに設計、施工、木造建築の保存の為に新技術でご活躍の方々に講師としてお招きし、各立場から考える木の特性、木の魅力、木の扱い方についてご講演頂きます。

木に興味のある方の為に楽しく面白いセミナーです。

共催 大阪木材青年経営者協議会
日時 11月18日(土) 14:00～17:30
会場 大阪木材仲買会館 大会議室

内容

- 1.「木造が好きで30年」
萬川建築設計事務所所長 萬川幹夫
- 2.「大工が建てる木のすまい」
木又工務店 棟梁 木又誠次
- 3.「木で木を洗う エアークラウド工法
歴史的建造物の再生にも活躍」
エアー鉋工業会

定員 40名(定員に達し次第締切)
受講料 会員1,000円 会員外1,500円
学生500円
懇親会費用 参加の場合別途徴収

建築士の会 南河内
職人シリーズ 第二弾
11/18 CPD4単位(予定)

利休の生まれた町 堺で100年続く3代目庭師が手掛けた庭園を見学しながら庭造りの話を聞きます。近年少なくなっている里山や田園風景と同じ様に縁側や茶室、中庭の「つくばい」が刻まれている一般住宅の庭2邸を見学します。

日時 11月18日(土)
10:00～12:00 14:00～16:00
会場 泉北ニュータウン(泉ヶ丘)・鳳
講師 川岸松信(植利代表)
定員 30名(申込先着順)
受講料 会員1,000円 会員外1,500円

建築士の会 やおかしわら
建築士の会 東大阪 共同開催
わくわく探検(駅前シリーズ)第17弾
旧奈良街道(亀井から植松)を歩く
11/25 CPD3単位(予定)

今回は、JR久宝寺駅を出発して、今では日本で唯一ここしか製造していないハリケーンランプの工場見学後、大聖勝軍寺から洪川神社を経て、安中新田会所跡 旧植田家住宅の見学、終点のJR八尾駅までの約5kmの行程です。

日時 11月25日(土) 9:00～12:30
8:45 受付開始
集合 JR久宝寺駅改札口
募集 30名(申込先着順)
参加費 1,000円

社会貢献委員会まちづくり分科会企画
まちづくり分科会20周年シンポジウム
「これまでの20年とこれからの20年」
11/29 CPD2単位(予定)

まちづくり分科会は、活動を開始して今年で20年目となります。これまでに建築士の専門性を活かしたまちづくりについて公益的かつ野心的な取り組みを様々な行ってきました。今回、活動に携わったメンバーが20年間の活動を大いに語り、まちづくりを担う建築士のあり方や今後のまちづくり活動の将来について楽しく議論を深めます。多様なまちづくりを学べる機会ですので、ぜひご参加ください。

日時 11月29日(水) 18:30～20:30
会場 大阪府建築士会会議室
定員 50名(申込先着順)
参加費 500円(交流会費は別途徴収)

本会の催し参加問合せ・申込先
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

Administration

行政からのお知らせ

大阪府住宅供給公社 職員採用試験のご案内
(社会人採用／建築職・事務職)

平成29年度(第2回)大阪府住宅供給公社職員採用試験のご案内です。

応募職種・人数 建築職、事務職 各2名程度
募集期間 募集中～平成29年10月12日(木) 16時まで
試験概要その他、詳細は、以下のHPをご覧ください。
<http://www.osaka-kousha.or.jp/x-info/employ.html>

問合せ 大阪府住宅供給公社総務企画部総務課
人事給与グループ
Tel.06-6203-5207(直通)

「平成29年度 高齢者・障がい者向け住宅改造成造相談のための研修」
10/12(基礎編)・10/19(実践編)

大阪の住まい活性化フォーラムは、ATC エイジレスセンター 実行委員会との共催により、「平成29年度 高齢者・障がい者向け住宅改造成造相談のための研修」を開催します。

(基礎編) 高齢者・障がい者向け住宅改造成造相談に必要な基本的な知識について

日時 10月12日(木) 13:00～17:00
(実践編) 具体的な事例から学ぶ住宅改造成造相談の進め方について

日時 10月19日(木) 13:00～17:00
会場 ATCエイジレスセンター前
大阪市住之江区南港北2-1-10
(ATC ITM棟11階)
講師 認定NPO法人福祉医療建築の連携による住居改善研究会
定員 100名(先着順)
受講料 1,000円(資料代として)
※基礎編・実践編の両講座の受講を推奨します。
※どちらかの研修会に出席した時点で、テキストと引き換えに受講料を徴収。
詳細・申込 下記URLをご覧ください。
<http://www.ageless.gr.jp/topics/seminar/1502.html>

違反建築防止週間
期間 平成29年10月15日(日)～
平成29年10月21日(土)

国土交通省及び各特定行政庁においては、建築基準法違反の建築物の是正及びその発生予防に努めており、その一環として、全国一斉に「違反建築防止週間」を定めて実施しています。府内特定行政庁では、期間中の取り組みとして、建築パトロールや各種PR活動を通じて、府民の皆様様に建築手続き等の周知を図っていくこととしています。

建築士の皆様には、適切な工事監理が行われると共に、建築基準法に定められた中間・完了検査を受検し、欠陥のない適法な建物を供給できるよう、お願いします。

問合せ 大阪府住宅まちづくり部建築指導室
建築安全課
Tel.06-6941-0351 内線4326・6282
http://www.pref.osaka.jp/kenshi_anzen/anzen_kaigi/campaign.html

Others

その他のお知らせ

国際見本市『LIVING & DESIGN 2017』
10/11～10/13

今年8度目を迎える、住空間、インテリアを対象とした「LIVING & DESIGN」一住まいと暮らしのリノベーションが、大阪南港ATCホールで開催されます。

主催 LIVING & DESIGN 実行委員会
期間 10月11日(水)～10月13日(金)
会場 大阪南港ATCホール
大阪市住之江区南港北2-1-10
入場料 1,000円(但し、招待状持参者、WEBからの事前登録者は無料)
問合せ LIVING & DESIGN実行委員会事務局
Tel.06-6210-1969
<http://www.living-and-design.com>

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

平成29年度建築士定期講習

12/14、1/25、2/28、3/26、3/30
CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成26年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。

日程・会場
12/14(木) 大阪府建築健保会館
定員90名 会場コード5C-54
1/25(木) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-05
2/28(水) 大阪国際会議場
定員300名 会場コード5C-55
3/26(月) 大阪国際会議場
定員300名 会場コード5C-06
3/30(金) 大阪府建築健保会館
定員90名 会場コード5C-56
時間 9:25～17:00
申込書必着日 12/14(木)講習:11/9(木)
1/25(木)講習:12/21(木)
2/28(水)講習:1/24(水)
3/26(月)講習:2/19(月)
3/30(金)講習:2/23(金)
※各回定員に達し次第、受付を終了します。
受講料 12,960円(消費税含)
申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

建築士会会員受講料全額補助

大阪府住宅省エネルギー設計者講習会
10/10・10/23・11/6・11/21・12/5
CPD6単位

国土交通省が新省エネ基準を2020年までにすべての新築住宅に適合を義務付けることに先がけて、設計者に木造住宅の省エネ技術の習得をしていただく講習会です。
日程 10/10・10/23・11/6・11/21・12/5
時間 9:45～16:45(各回共)
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪市中央区泉町2-1-11
定員 各回120名
受講料 会員 本会が補助
会員外1,000円(テキスト代含)
※建築士会会員は受講料を本会が全額補助。
申込 専用のWEBからお申込みください。
HP [省エネ講習会](#) [検索](#)
詳細は今月号同封のチラシをご覧ください。

平成29年度監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)
11/9、1/18、2/15、3/7
CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。

日程 11/9(木)、1/18(木)、2/15(木)、3/7(水)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み 9,500円
郵送申込み 10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

大阪府知事指定講習

建築物省エネ法の手続きに関する講習会
11/29 CPD3単位(予定)

建築物省エネ法の規制措置が4月に施行され、同法に基づく適合性判定、届出制度がスタートしましたが、実例もまだ少なく不明な点も多いと思われます。本講習では、法施行に伴う判定等の手続き、その後の確認申請・検査等にかかる実際の手続きや留意事項のほか、建築物省エネ法と関わりが深い大阪府温暖化防止条例の改正内容について、大阪府内建築行政連絡協議会から講師を招き、ご紹介いたします。

日時 11月29日(水) 13:00～16:20
会場 大阪府建築健保会館
内容 建築物省エネ法の概要、大阪府温暖化の防止等に関する条例、建築物省エネ法の適合性判定・届出等に関する手続き、適合性判定に伴う建築確認申請・完了検査等に関する手続き
定員 100名(定員に達し次第締切)
受講料 主催団体会員3,500円
一般7,000円

建築士法にもとづく建築技術講習会

木造建築物の設計講習会
12/1 CPD3単位(予定)

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が平成22年に施行され、国が整備する低層の公共建築物について、原則として全て木造化、その他の公共建築物でも積極的に木造化を推進することが求められています。本講習会では、木造建築物構造設計の第一人者である南山辺構造設計事務所の山辺代表から、地域材を用いた中大規模木造建築物の構造設計について事例をご紹介いただきながら、地域材を用いる場合の構造計画のポイントや、許容応力度計算における注意点などについて解説いただきます。

日時 12月1日(金) 11:00～15:30
会場 大阪府建築健保会館
内容 地域材を用いた中大規模木造建築物の構造設計、木造住宅の構造計画の基礎知識、質疑応答
定員 100名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

大阪府知事指定講習

平成29年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》
12/7・2/9 CPD各5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。)

日程 ①12月7日(木)
②平成30年2月9日(金)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

大阪府知事指定講習

平成29年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
1/30 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。
日時 1月30日(火) 9:30～16:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 120名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

住宅を設計する仲間達 オープン勉強会

カラーセミナー
～人の生活・環境・心を豊かにする色を活かすテクニック～
10/4 CPD2単位(予定)

色を自由に使いこなせる技術・テクニックを、基礎・事例紹介・配色実技・雑学ネタまで、幅広く実践的に、楽しく解説いたします。
日時 10月4日(水) 18:00～20:00
会場 大阪府建築士会会議室
講師 小堀斗志子(日本ペイント株式会社 近畿支店リウォール推進グループ)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
※住宅仲間達登録者は無料

定員 50名(申込先着順)

耐震部会 第3回勉強会

格子補強フレームと意匠の調和
「今井町の家」見学勉強会
10/7 CPD2単位(予定)

本会耐震部会では、年に数回、所属委員の技術向上を図る意味で、勉強会を実施しています。今回は、所属委員だけではなく、会員中心に広く募集いたします。内容は格子補強フレームと意匠の調和「今井町の家」見学勉強会です。設計者自らの解説で構造・意匠の特徴を伺います。設計者は横関正人氏と横関万貴子氏で、この建物で第61回大阪建築コンクール大阪府知事賞を受賞されました。

日時 10月7日(土) 14:00～16:00
(受付13:30～)
会場 今井町の家(樺原市)
講師 横関正人、横関万貴子
(一級建築士事務所 (有)NEO GEO)
参加費 会員1,500円 会員外2,000円
募集 30名(申込先着順)

地域分科会建築士の会「大阪市東」企画
一正15年竣工 旧大林組本店ビル
「ルポンドシエルビル」見学会
10/14 CPD3単位(予定)

北浜のフレンチレストランLE PONT DE CIELでおなじみの「ルポンドシエルビル」の見学会です。開店前のレストラン内部を見学した後に、設計・工事に関わった大林組担当者より、リノベーションの技法についてお話を伺います。また、この日特別に開催していただく大林組歴史館を、同ビルB1にある和食料理店での昼食後に訪れます。

日時 10月14日(土) 10:00～14:00
会場 ルポンドシエルビル
最寄駅 京阪・地下鉄「北浜」駅
参加費 会員4,000円 会員外4,500円
(昼食代含む(飲み物のみ別途))
定員 30名(申込先着順)

集まれ! けんちく女子 プレイベント開催
ふたりの建築女子 井上久実氏+長町志穂氏によるトークセッション
10/23

10/28に開催する、集まれ!けんちく女子WORD Café「建築女子がきづく未来」に先立ち、ふたりの建築女子、建築家井上久実氏と照明デザイナー長町志穂氏により「建築女子がきづく未来に向けて」というテーマでトークセッションを開催します。会場となります「Under-35展覧会」の詳細は、ウェブサイト<http://u35.aaf.ac/>にてご確認ください。

日時 10月23日(月) 14:00～16:00
会場 グランフロント大阪うめきたシップホール
(under-35展覧会内)
定員 30名
参加費 無料
但し、「35歳以下の若手建築家による建築の展覧会2017」入場料 1,000円必要

会長動静

- 8/24 交野市長面談
寝屋川副市長面談
- 8/28 国土交通省中央建築士審査会
- 8/29 羽曳野市長面談
- 9/ 3～5 UIA ソウル大会
韓国建築士会会長等面談
- 9/ 8 藤井寺副市長面談
- 9/12 総務企画委員会（連合会）
- 9/13 大阪府収用委員会
弁護士との意見交換会
- 9/14 高槻市長面談
- 9/15 大阪都市景観建築賞審査委員会
- 9/16 近畿建築士会協議会青年部会
- 9/19 大阪急性期・総合医療センターとの
協定締結式
- 9/20 正副会長会議、理事会
- 9/22 正副会長会議（連合会）

※（連合会）：公益社団法人日本建築士会連合会



（左）黒田交野市長



（左）戸上
寝屋川副市長



（右）北川
羽曳野市長



（左）松浦
藤井寺副市長



（右）濱田高槻市長

運営委員会

二級建築士設計製図試験を実施

今年の二級建築士設計製図試験を、9月10日に「家族のライフステージの変化に対応できる三世代住宅（木造2階建て）」の課題で近畿大学東大阪キャンパスにおいて実施しました。

全国で10,837名が受験され、大阪では本会が運営を担当し、今年学科を合格された547名と、過去3年間に学科を合格された329名の合計876名が受験されました。受験者数は昨年比で、全国で321名の減少、大阪で1名の増加です。

一級・木造建築士の設計製図試験は、10月8日に、マイドーム大阪と大阪商工会議所で実施します。

運営委員会

第1回関西住宅・都市イノベーション総合展に本会PRブースを出展

9月20日～22日の3日間、インテックス大阪において約150社の建築関連メーカー等が出展する「第1回関西住宅・都市イノベーション総合展」に、本会のPRブースを設置し、日頃の活動の紹介と入会の呼びかけを行いました。

本会の社会貢献活動を「防災」「耐震」「建築相談」「まちづくり」「住環境」、建築士支援等の活動を「人材育成」「技術向上」「国際」「仲間」「賛助」の切り口で分け、それぞれの活動内容をパネルで紹介しました。会場では本会の展示を熱心に見る方や、活動内容についての問い合わせもあり、来場した建築関係者に本会の活動を大いにアピールしました。



本会の活動紹介ブース

社会貢献委員会

大地震時の応急危険度判定士連絡訓練を実施

国土交通省及び全国自治体が参加して、8

月30日に北陸地方でマグニチュード7.0の地震が発生したとの想定により、応急危険度判定士の連絡訓練を実施しました。

本会も大阪府と締結している「被災建築物応急危険度判定士派遣協定」に基づき会員判定士に対し参集の連絡をしました。連絡訓練の目的は、他府県での判定活動可能者数の把握と、判定士への連絡体制の確認です。本会では、携帯電話とEメールにより連絡網を構築しており有効に機能するかを確認しました。

今年の訓練では、本会所属判定士602名全員に対して、金沢市で3日間の判定活動が可能か否かをお聞きしました。

その結果、224名から参加可能な回答を得て、その旨を大阪府へ報告しました。

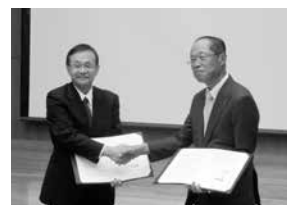
社会貢献委員会

大阪急性期・総合医療センターと応急危険度判定の協定を締結

本会と大阪急性期・総合医療センター（住吉区万代東3丁目）は、9月19日に応急危険度判定に関する協定を締結しました。協定は震度6弱以上の大地震が発生した際、本会判定士が迅速に病棟等の危険度判定を実施し、病院利用者の安全を確保することを目的としています。

これは、大阪府や市が大地震の際に実施する応急危険度判定は、本医療センターのような大規模施設を対象としていないため、医療センターからの要請を受け、本会が判定支援を行うもので、全国で初めてのケースです。

本医療センターは災害時の拠点病院であり、災害時においても病院機能の維持が可能となるよう、建築構造躯体をはじめ、建築設備、医療機器、非構造部材等の高い耐震性が求められます。本会では協定をきっかけに、災害時において地域の人々が安全に利用できるよう、医療センター施設の耐震性向上を図るための幅広い技術支援を行うこととしています。



（左）後藤
医療センター総長

建築技術講習会『大阪工業大学梅田キャンパスにみる省 CO₂ の技術とデザイン』

日程：平成 29 年 8 月 9 日（水） 会場：OIT 梅田タワー 参加者：62 名

阪急梅田駅に近接した都市型キャンパスである「OIT 梅田タワー」には、様々な環境配慮技術が盛込まれ、国交省の住宅・建築物省 CO₂ 先導事業に採択されています。講習会では、設計者である服部建築事務所の南さん、石本建築事務所の東原さんから建築と環境配慮デザインについて解説を受けた後、小グループに分かれて館内を見学しました。地下空間に外気を取込んで温度を下げたのち建物に供給するアースチューブピット。自然換気とコミュニケーションを促す連続した吹抜空間。デザインスタジオに設置された天井放射空調パネルとタスクアンドアンビエント照明。あえて隠さないオイルダンパー。様々な樹種が学べる屋上庭園。そして最上部のハットトラスから吊られたカーテンウォールと太陽光発電パネル組み込みのエコロジカルスキン。随所に技術の解説パネルが設置され、他にも盛り沢山。まさに技術のショー

ケースです。また、コンベンションホールもあり、地域開放や防災対応、情報発信にも力を入れているとか。そして最上階の 21 階には美しいシャンデリアのある高級イタリアンレストラン。実はこの同じ空間で、お昼には別の運営者が「葉の花食堂」という学生食堂を開き、600 円ランチを提供すると聞いて早めに出かけたところ、残念にも当日は貸切営業で、見学だけとなりました。それにしても“昼夜入替”も“展望学食”も、都市型キャンパスならではの思い切った発想です。大学の講義や演習で高層ビルの設計を学ぶ機会があまりないと思われる中、間近に先進技術を見ることが出来る OIT 梅田タワーは、空間デザイン専攻の学生にとって比類ない学び舎となるでしょう。そしてキャンパスを一步出れば、刺激と誘惑に満ちた、これまた比類ない環境が広がっています。このような“多重に”

富田昌義（研修分科会委員）



恵まれた環境をどう活かすかは、学生さん達次第ですが。今回の講習会は、都市型キャンパスのつくり方と環境配慮技術について幅広く学ぶことが出来て、参加者にも大変好評でした。



「職人シリーズ第一弾」を受講して

日程：平成 29 年 9 月 14 日（木） 会場：松原ゆめニティプラザ 3 階ホール 参加者：23 名

今回、地域分科会「建築士の会 南河内」において、「職人シリーズ第一弾」ということで、「業務に役立つ畳、畳職人の話」を受講しました。講師は堺市で「大江畳店」を営まれている大江俊幸さんで、畳の価格、素材、形とサイズ、畳の将来のテーマで、写真と畳の現物を会場に持ち込まれて、熱のこもった説明をされました。畳表の良し悪しの見分け方について、1 畳 1 万円の汎用品と 10 万円近くもする上級品を実際に足で感じて、手で触って実感しました。そして、畳表のイグサを、下級と最上級イグサの長さ、色合い等の違いを実物イグサで見比べました。寺社に納入する畳は、納入先の畳縁が畳サイズにより、描かれている紋が切れない工夫等のノウハウに受講者は聞き入り

ました。また、一般の方から、「畳 1 枚いくらですか？」という問い合わせがよくあるとのことで、その都度、オーダーメイドであることを伝え、戸建かマンションか、床の間付きか、茶室でも練習用か、本式接客用かなどを質問して回答する、畳店ならではの話を聞かせてもらいました。畳の将来については、畳の無い住宅が大勢を占め、注文が激減しているなか、「フロア敷きの上に置き畳をして寝ころびたい」という問い合わせもあり、納入実績も結構あるとのこと。要望に応え、カタログを作成し、インターネットを通じて、畳の良さを一般の方にわかりやすく伝える努力をされています。受講を終え、住宅設計に携わる技術者として、「畳」の良さを施主に説明してい

湯谷三木男（会員）



かなければいけないと再認識しました。次回からは、造園、大工といった職人さんからの話が聞けるようです。



農村集落の景観に配慮した新たな土地利用について

文 馬瀬 師彦

【はじめに】

能勢町は、大阪の北摂地域、都心部から約三〇kmの距離に位置しており、標高五〇〇m〜七〇〇mの緩やかな北摂山系に囲まれ、あたり一面に田園が広がっている人口約一万人の町です。歴史はふるく、縄文時代から人々が暮らしており、数多くの文化財が点在しています。人口は平成一二年をピークに年々減少していますが、現在まで農村景観を保ちつつ、既存集落のコミュニティ活動も維持されてきています。

【ほば市街化調整区域のまち】

能勢町は、平成七年三月に区域区分を定め、町域の約九九%が市街化調整区域となりました。無秩序な山林斜面等への宅地造成等が進むことで、豊かな農山村地域の環境が失われていくことに対する危機感から線引きをしました。そして既存集落も新たな建設が抑制されることで、農村集落の景観が保全されてきました。しかし、近年少子高齢化や若者の転出が進むことで集落のコミュニティ活動が低下してきており、能勢町の土地利用のあり方に対する意見を聞くことが増え、線引きの廃止や市街化区域の拡大への相談が寄せられていました。

市街化調整区域で、開発行為を行うに

は、都市計画法第三四条各号の基準に該当する必要がありますが、特に第一四号では、当時の府の提案基準をそのまま準用していたことから、新たに土地を取得した人が、その土地に建物を建築することとはほとんど許可できませんでした。このため不動産調査において、市街化調整区域となると、一般的に開発行為がほばできないものと認識され、住宅等の建築を目的とした土地取引で、敬遠されます。

【能勢町の上位計画の方針等】

能勢町の第五次総合計画では、人口減少に起因する地域活力の低下が懸念されるなか、特に若年層の定住促進、雇用の創出、地域経済の活性化等の観点を十分に鑑みながら土地利用を進めるとしており、活力ある暮らしを支える土地利用の方針として、旧村単位のまとまりや歴史的背景、日常の生活圏域など地域の特性や課題に対応した空間の整備をめざすとしています。特に市街化調整区域内の地域づくりの基本的な考え方として、地域固有の資源や既存ストック（豊かな自然環境、美しい景観、既整備の基盤施設など）を活用した土地利用を図るとしています。

能勢町都市計画マスタープランでは、市街化調整区域のまちづくりの方針として、地区計画のガイドラインに基づく地

区計画制度や開発許可制度の弾力的な活用等により、土地利用の推進を支援・誘導するとしています。

また、能勢町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、具体的な取り組みとして、市街化調整区域に関する新たな開発許可制度を検討するとしています。

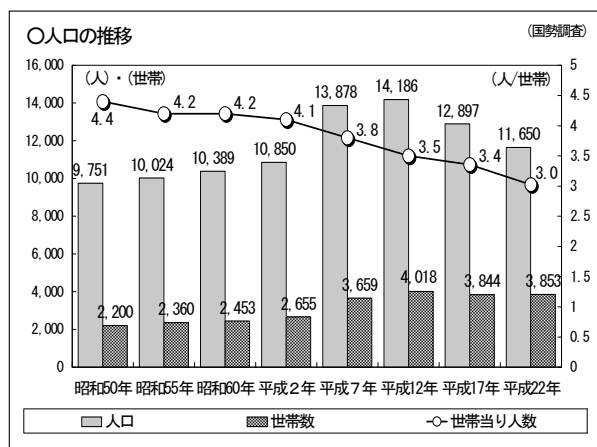
そして能勢町都市計画審議会から、北部大阪都市計画区域の整備・開発及び保全の方針の変更に對する諮問に對し、喫緊の対策として開発許可制度の柔軟な運用等について検討し、能勢町のまちづくりに反映されたいとの答申を受けています。

【能勢町での開発許可制度における独自運用の検討】

線引きの廃止や市街化調整区域を拡大させることは、都市計画法や都市計画マスタープラン、そして農村の景観を保全するという能勢町の総合計画にそぐわないことから実現が困難であることはご理解いただけるものと思います。平成一八年五月都市計画法が改正され、市街化調整区域における大規模開発を許可できる規定が廃止され、地区計画の内容に適合したものに限り、開発許可できることとなったことから能勢町でも地区計画制度を活用できるように、平成二一年四月に

能勢町地区計画ガイドラインを策定したところです。しかしほば全域が市街化調整区域である能勢町では、全集落において開発許可制度の緩和を求めるニーズにそぐわない制度でありました。

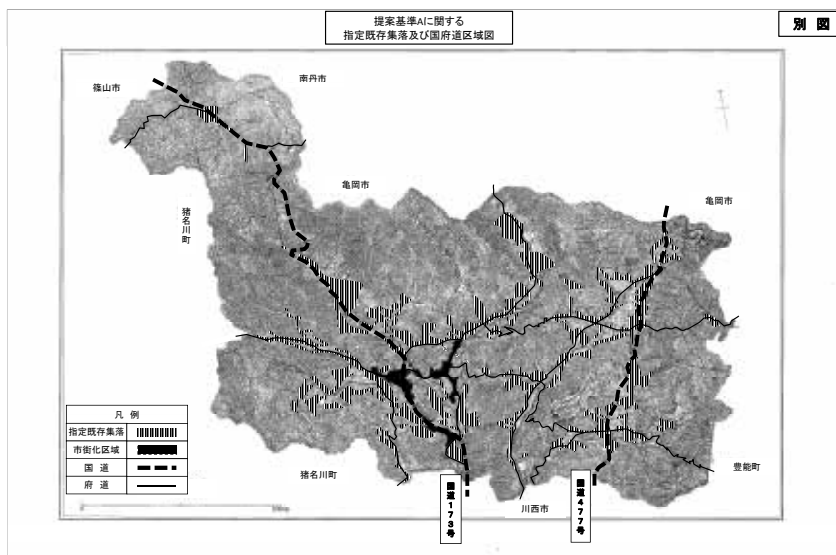
このため、平成二七年一二月に開発許可制度の運用の緩和について、大阪府に相談したところ、国土交通省からの「都市計画運用指針及び開発許可制度の運用指針の改正」の通知を紹介していただきました。通知によると事務処理市町村が独自の提案基準を設けることができることあり、既に大阪府から権限移譲を受けて



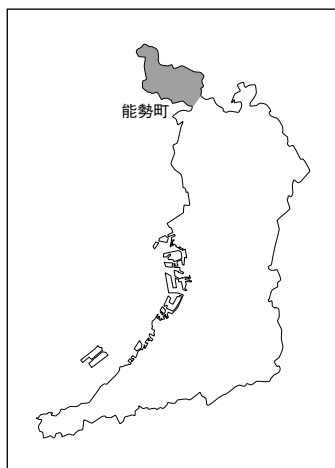
人口推移



府民牧場跡地に建設された能勢ささゆり学園（道の駅から撮影）



指定既存集落及び国府道区域図



馬瀬 師彦
能勢町環境創造部地域整備課課長
一九六五年 兵庫県生まれ
一九八九年 関西学院大学理学部卒業後、民間に就職
一九九四年 能勢町入庁、土地改良、水道、道路・河川及び都市計画行政に携わる
二〇一七年 四月より現職に至る

能勢町への移住、週末居住或いはレス
トランなどの店舗をお考えの方は、市街
化調整区域ということで断念されずに、
ぜひ能勢町独自の提案基準で検討されて
はいかがでしょうか。ご相談お待ちしております。

いたことから、早速、能勢町独自の提案
基準の策定に取り組みました。そして大
阪府と協議を重ねた上で、平成二八年七
月に大阪府開発審査会で認められ、能勢
町独自の提案基準を設けることができま
した。その内容は、自己居住用と自己業
務用の建築物とすることで、地域への居
住を目的としており、地理的に、集落の
住宅等から五〇m以内または二車線以上
の国道・府道の沿道とすることで、集落
等のまとまりが拡散しないようにしまし
た。また附則で人口一四、〇〇〇人（線
引き時の人口）に達するまでとし、一定
の総量制限を行い、一〇月に運用を開始

しました。
これにより、既存集落や幹線道路沿い
で、自己の居住用及び業務用の低層建築
物の開発行為が可能になるとともに、集
落等の拡散を最小限にとどめることで、
農村の景観を保全することができる独自
の提案基準になったと考えています。
【今後の展開と課題】
今後、能勢町でも人口減少が進むこと
は避けられないことから、「コンパクト
シティ」の考え方が必要となつています。
サービス拠点をできるだけコンパクトに
し、拠点施設と拠点施設、集落と集落、

集落と拠点施設に交通や情報のネット
ワークを構築することで、それぞれの集
落に居住されていても住みやすいまちづ
くりを促進する必要があると考えていま
す。また併せて企業誘致等への土地利用
を行い、雇用の創出等を図ることで、若
年層の定住促進につなげたいと考えてい
ます。
【最後に能勢町のアツイところのPR】
ひとつは、平成二八年四月に開校した
能勢ささゆり学園です。府民牧場の跡地
に建設されていることから、自然を背景
にしており、環境のよい学校です。学校

内の設備も充実していることから、恵ま
れた教育環境だと思っています。
次に、能勢町観光物産センターです。
能勢町内で生産された新鮮な農産物を
生産者自身が出荷、陳列しています。農
産物以外にも農産加工品や地酒、ミネラ
ルウォーターなどの特産品も販売してい
ます。
最後に、能勢町 移住・観光PVをP
Rします。能勢町の魅力が満載です。こ
れをご覧になっていただければ能勢町の
魅力が伝わると思います。
それぞれ能勢町のホームページから検
索することができます。
能勢町への移住、週末居住或いはレス
トランなどの店舗をお考えの方は、市街
化調整区域ということで断念されずに、
ぜひ能勢町独自の提案基準で検討されて
はいかがでしょうか。ご相談お待ちしております。

設計・監理：徳岡設計・アール企画・Spazio 設計共同企業体 監修：狩野忠正
 施 工：浅川・三谷特定建設工事共同企業体 家具：狩野新アトリエ

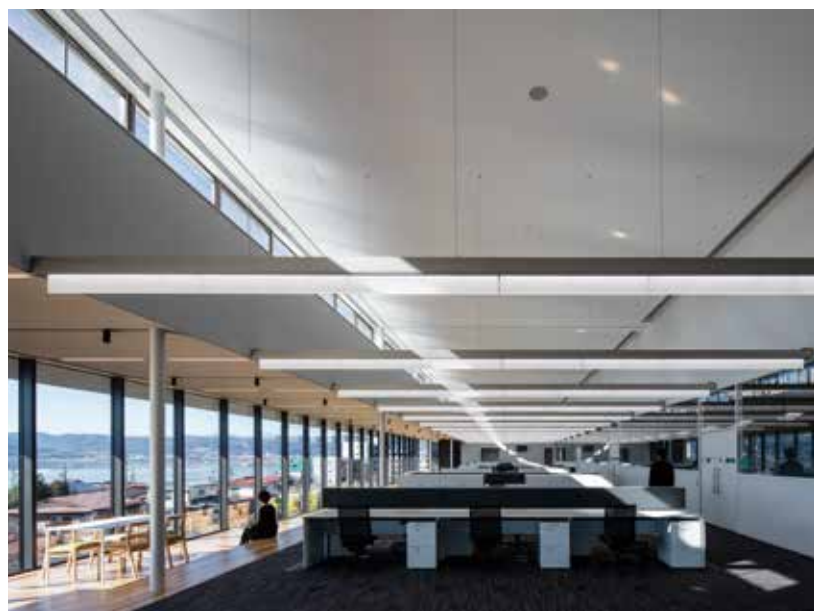


所在地：和歌山県有田市箕島 敷地面積：5,019.69㎡
 用途：劇場・図書館 建築面積：2,458.26㎡
 竣工：2017.07 延床面積：4,343.77㎡
 構造規模：RC造(一部S造)地上4階 写真：松村芳治

市役所と消防署の立地する既存施設間に、市民ホールを整備する計画を補強するため、中心市街地再構築を視野に入れて図書館を複合させ、明解でコンパクトな都市核を創出する事業である。南に有田川、北にはみかん山を望む豊かな地域を象徴し、場の力を活かす建築を目指した。紀州産木材を使用した空間には、四季の風景を感じられる図書館と、自然の恵みや通商の賑わいを舞台と客席の双方で三次元的に体感できる紀文ホールが複合的に構成され、外部へと溢れ出し、地域へと発信する。行政、教育文化、防災機能を備える複合整備が、住み続けたいまちづくりの基盤となるよう祈念している。

(徳岡浩二／徳岡設計)





LED・半導体レーザーの先進的応用製品の開発拠点の計画。ハヶ岳連峰に連なる山裾に位置し前面に諏訪湖が広がる豊かな立地を生かした空間構成とすることで、イノベーションに貢献する研究環境を目指した。メイン機能をワンフロアに集約し空中へ持ち上げ、湖を望む良好な環境を確保した。湖側からコモン、執務、実験スペースを廊下レスで配し、湖との距離感に応じ、自然光、視線高さ、照明、断面構成を変化させ、湖側ほど開放的でリラックスできる、山側ほど閉鎖的で集中力を高められる空間とした。研究者が閃きや気分に応じシームレスに空間を行き来し、どこにいても諏訪湖を感じられる透明感のある研究環境を創造した。(興津俊宏)

建築主：日亜化学工業
所在地：長野県諏訪郡
用途：研究所
竣工：2016.11
構造規模：S造・RC造
地下1階・地上2階
敷地面積：13,384.96㎡
建築面積：2,625.44㎡
延床面積：4,002.86㎡
写真：母倉知樹

猛暑が続いた今年の八月十三日、東京西部の小平市にある武蔵野美術大学を数年ぶりに訪れた。構内の美術館で、「荇原義信建築アーカイブ展—モダニズムにかけた夢」と題する建築展が開催されており、周囲からその充実した内容の評判を聞きつけて、最終日に滑り込みで駆け込んだ形だった。

東京駅から中央線の快速電車に乗って約四五分、国分寺駅で下車し、西武線に乗り換えて五分足らずで鷹の台駅に到着する。そこから、玉川上水という江戸時代に市街へ上水路を引く総延長四〇キロを超える大きな水道事業だった水路沿いの緑豊かな散策路を歩いて進むと、二〇分ほどで大学の正門にたどり着く。おりしも、夏休みに合せてオープン・キャンパスが催されており、たくさん的高校生と父兄が詰めかけていた。展覧会に併せて出版された詳細な図録の解説によれば、この大学の建築群は、同大学の鷹の台新キャンパスへの移転に際し、建築学科創設と主任教授着任を要請された荇原義信（一九一八—二〇〇三年）が、一九六〇年に大学が取得した約四万㎡の農地に全体計画を立て、順次設計を手がけてきたものだという。最初に竣工したアトリエ棟（一九六四年）と対面のデザイン棟（一九六五年）、敷地奥の美術館棟（一九六七年）と手前の本館（一九六八年）の中央広場を取り囲む第一期の四棟の校舎群を起点に、二〇〇〇年に竣工した本館横の九号館に至るまで、その合計は二三棟にも上る。すでに解体されたものも多いが、キャンパスの骨格を成す空間構成は健全な形で保持されている。そんな建築群の中にある美術館で、一九八八年の教授退任時の展覧会から二九年を経て、荇原の仕事の全体像を紹介する没後初となる建築展が開かれたのである。

展示されていたのは、二〇一三年に遺族からの寄贈を受けて大学が立ち上げたアーカイブ・プロジェクトの成果だった。緻密に描かれた設計原図や透視図、構造図、竣工写真など、貴重な建築資料ばかりである。デビュー作の中央公論ビルディング（一九五六年）に始まり、一九六四年の東京オリンピックの主会場の一つとなった駒沢公園体育館・管制塔や、惜しくも今年三月に閉館し、現在解体工事が進むソニービル（一九六六年）、モントリオール万国博覧会日

記憶の建築

松隈 洋

武蔵野美術大学 1964～68年
隠れた秩序が育むキャンパス風景



中央広場に面するデザイン棟



デザイン棟から見るアトリエ棟

東西方向に長い奥行き約三五〇mの敷地の中央を、東端の正門から真つ直ぐにアプローチ路が西へと伸びている。キャンパスのほぼ真ん中に置かれた中央広場の地盤レベルは正門付近から約三m高い。そのため、緩やかな階段を登って行くアプローチになっている。八〇mほど先に見える寡黙な表情の本館の足元を、トンネルをくぐるように進むと、敷地の段差を巧みに利用した思いのほか変化に富んだ空間構成に驚かされる。その本館を抜けると視界は一気に開け、

本館（一九六七年）やフジフィルム東京本社ビル（一九六九年）に至るまで、代表作を中心に、展覧会の副題にもあるように、荇原の「モダニズムにかけた夢」を余すことなく伝えていた。そして、展示でも大きく紹介されていたが、新キャンパスの中心となる第一期の建築群が丁寧な改修を施されて今も活き活きと使われていることに感銘を覚えた。そこには、荇原への敬愛の念が込められているように思えたからである。建築群の配置計画は単純明快で秀逸だ。

明るい中央広場が現われる。さらに、その九〇mほど先の正面には、中央にガラス張りの吹抜けの大空間を内包する美術館棟が見え、視線が真つ直ぐに内部へと誘われていく。また、中央広場の左手には、鉄筋コンクリートの梁を井桁に組んだ格子状の二階部分を頑丈な柱脚のピロティで持ち上げたアトリエ棟があり、右手には、矢羽根のレリーフが刻まれたコンクリート打放しの外壁とアトリエ棟と同じ柱間の九・六mのモジュールで構成された柱と梁による「デザ

イン棟が力強い表情を醸し出している。こうして、迷うことなくごく自然に、大学キャンパスの守られた広場的な空間が生たちを大らかに迎い入れているのである。また、アトリエ棟の二階には、市松状に配置された各アトリエに採光のための高窓の勾配屋根が架けられ、心地よいリズムと人間的なスケール感が刻まれている。さらに、デザイン棟には、敷地の段差を巧みに利用して、階段室に広めの踊り場やテラスが設けられており、学生たちの談笑する光景が生み出されていた。その一方で、本館や美術館棟は、より大きなスケール感とそつけない外観にとどめることで、対比的で整然とした静かなたたずまいが生み出されているのである。このように、配置計画から細部の造り込みに至るまで、隠れた秩序による周到な設計が施されているからこそ、半世紀以上を経ても、新鮮な雰囲気や微動だにしないのだと思う。またそこには、建物がつくり出す外部空間への確かな眼差しもうかがえる。ある著書の中に、荇原の次のような言葉が残されている。

「外部空間の設計とは、『大きい空間』『小さい空間』に分割したり、還元したりして、空間をより人間的にしたり充実したりする技術であると考えるのである。」（荇原義信『外部空間の構成』彰国社一九七五年）

ここに記された空間を人間的に充実させる技術という視点こそ、この武蔵野美術大学に結実した荇原の独自の的方法論であり、現代へ継承が求められるものだと思う。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

匠の巧

■ 塩田木材工業有限公司



工場の作業場では、制作の真っ最中であっても作業ごとに片付けを行うため、整理整頓した状態が保たれている。

木製建具の匠集団

文 河合哲夫・丸子勇人

■ 木製建具

建具は、様々な建築部位の中で最も人の手が直接触れる要素で、人の動きや気候の変化に合わせて動かされ続ける部位である。建具を動かすことによって建築空間における動作、視線、眺望や空気、熱、音等の環境をコントロールする。空間を屋根、壁、床等により分節することで領域をつくり、様々な行為に適した場を確保していくことが建築であるとするなら、建具はそれらの要素に穿つ開口部における分節の度合いを変化させることで、隔たれた空間相互の関係を、絶えず変化する条件に合わせて調整し、目的に応じた空間を獲得するための装置である。常に人の動作とともにあり、手で動かし、そこを通過する光や風、それが作り出す影などが感覚を刺激する建具は、建築の部位の中でも特別な存在である。そのため、建具の良し悪しは、空間の質を機能的にも意匠的にも大きく左右することになる。設計上においても多くの知識と経験を有する奥深い部位であり、設計者は建具の設計には特に気を配り、エネルギーを注ぐ。設計者は建具製作者とともに、そうした目的に叶う建具の探求を続け、様々な機能や意匠を生み出してきた。今回紹介する塩田木材工業は、大正八年に大阪で創業して以来、高度な伝統技術や意匠を実直に受け継ぎながら、時代の変化に対応し、設計事務所や施工会社、発注主から高い信頼を得ている木製建具を製作する匠集団である。

■ 原材料のストック

塩田木材工業の建具製作に対する高い意識を最も感じたのは、製作工場から車で三〇分程



伊勢寺修復完成写真

度のところにある、原材料の木材をストックする倉庫を案内された時であった。二階建ての広い倉庫には、様々な厚みに挽かれ、小口にその材種と製材年が記入された板材が積み上げられ、整然と貯蔵、管理されていた。その貯蔵量は、馴染みのある樹種から聞いたことのないものまで、三十六種類、約三百㎡(原木丸太換算)におよぶとのこと。塩田木材工業が製作する建具の品質と材料に対するこだわりを語るに十分なものがあつた。ストックヤードの確保や維持管理の人員費等の経費がかかることもあり、昨今の建具会社で材料を保有するところはほとんど無いと聞く。「建具に求める意匠や機能は多様化し、使用する材種は、非常に多くなっています。予算も含め施主や設計者のニーズに応えるためにも材料を自社で保有することにこだわっています。」

ます」と語られる塩田佳男氏は、この倉庫の材料管理を自ら行っている。「わずかな質の優秀にこだわり、素材を見極める施主や設計、施工者が減ってきました。よいものに触れる機会が少なくなってきました」とのこと。「私たちの年代は、それでもまだこだわり続けています。息子からは、こだわり過ぎと言われますが」という塩田氏の言葉に、同社が在阪の著名建築家から指名を受け続ける理由が伺えた。

■匠集団の製作工場

工場を案内頂いた。製作工程に沿って工作機械や作業台が並ぶ広い工場内。感心したのは、整頓された作業場の風景である。数えきれない工具や治具、工作機械の替刃達が整然と壁面を埋め尽くしている様は、美的ですらある。「社員の教育において、最も厳しくしていることは、作業場の片付けを徹底することです」と塩田氏は語る。「道具の整理は作業の効率と安全に大きく影響します。特に工作機械は、社員全員が共同で使いますから、常に整理された状態を保たないと、そのとき使っている人だけでなく、次に使う人の作業性まで左右してしまいます。大きなトラブルは突然起こることはないのです」。作業場の整理は、作業員の思考の整理であり、全ての仕事の基本であることを再認識させられた。塩田木材工業の作業空間から、彼らが世に



作業場の鉋が美しく整理されている。

出す建具の質そのものがわかる気がした。

■作品ではなく優れた製品

塩田木材工業の近作は、大宮御所勝手門（京都市）、伊勢寺（大阪府高槻市）修復等の歴史建築物における伝統技術を活かしたものから、京都の高級リゾートホテル等を手がけており、施主や建築家から指名される工事も多い。しかし、塩田氏は、「よく、代表的な作品は何ですか、と聞かれるのですが、私達が作り出すものは、「作品」ではありません。優れた「製品」、信頼のおける「製品」でありたいと思います」と言う。「私たちは、昔からの技術を使わせてもらっているものであつて、私たちがゼロから創造したものではありません。建築家が創造する空間は「作品」かもしれませんが、私たちは建築家が設計したものをつくらせてもらっているだけです」という塩田氏の言葉は、建具という建築を構成する「部分」をつくるのが彼らの生業であることに依拠するのではなく、単に謙遜して言われているのでもない。それは、間違いなく塩田木材工業に根付いた哲学である。なぜなら、彼らが製作する建具は、単に建築家がデザインしたものを図面通りに「製作する」に止まる凡庸なものではないことは、先述の実績が証明しているからだ。「私たちの仕事は、図面に描ききれない部分を読み取り、感じて、それに相応しい仕上がり」の建具を提供することです。例えば、部材の面取りの形状やスケール、使用する材料の見極めなどは、建築家が目指す空間を読み取り、そこに最適なものを職人自らが判断していくものなのです。彼らは自らの仕事に革新的な新しさを求めるのではなく、むしろその逆である。常に伝統や慣習に敬意を払いながら、自らのスペシャリストとしての経験や知識を総動員することで完成度を高めるのだ。そうして仕上がる建具は、単に建築を構成する部分であることを超

え、空間全体の質を引き上げていくことになる。

そのプロセスの中で塩田氏が心がけていることは、設計者とのコミュニケーションである。図面に表現しきれない建築の細部や素材の選択に対して設計者は万能ではない。また空間の作法や性能面においても、建築を構成する膨大な部分とその技術は、それぞれのスペシャリスト達の知識と経験が支えている。塩田木材工業は言うまでもなく建具の専門家として設計者とともに空間づくりを担っている。一級建築士でもある塩田氏は、プロジェクトに参画する極力初期から図面を読み取り、設計者と対話することを心がけているという。そこで両者のコミュニケーションがどれだけ成され、信頼関係が築かれるかは、仕上がった空間のクオリティを大きく左右するだろう。

建具製作を通じて伝統技能の継承と若手の育成に力を注がれている塩田氏は、建築文化全体の向上に貢献し、本年十二月八日に開催される第六十回建築士会全国大会「京都大会」で伝統的技能者の表彰を受けられる。

取材の中で、伝統的な木組みを使った格子のミニチュアを紹介して頂いた。それらは、あまりにも精巧で複雑であるため、果たしてどういう仕口が組み合わされてできているのか、その場で説明を受けても理解することができなかった。それらは、美しい精緻な工芸作品のようで、伝統の中で積み上げられた、木という素材を自在に操る技術の高度さに驚かされた。「若い頃は、よくこんなものを時間を見つけて作ったものでした」と語られる時の塩田氏の生き生きとした表情から、この仕事に対する誇りと喜びが伝わってきた。このような方とプロジェクトで協働できる機会を得たいと思うと同時に、自分自身もそうありたいと強く感じた取材であった。



原材料の木材をストックする倉庫。樹木の種類別に美しく積層して保管されている。



相談役の塩田佳男氏

十一月十八日に事業委員会女性分科会主催により、塩田佳男氏を講師に迎え「木製建具の知識と製作現場見学会」を開催します。詳しくは別途告知をご覧ください。

Open your next door!

**SHIOTA
MOKUZAI
KOGYO**

Since 1919

塩田木材工業有限会社
〒567-0865 茨木市横江1丁目5番15号
PHONE 072-634-2828
FAX 072-630-2021
E-mail yyyeee@piano.ocn.ne.jp

2017年3月、大阪市此花区に個性豊かな宿泊施設がオープンしました。詩人がディレクションを行い、様々な人々の交流の場となっています。この宿泊施設ができたプロセスについてディレクターであるお二人に紹介していただきました。

The Blend Inn の芽

辺口 芳典・溝辺 直人

2009年より黒目画廊・OTONARIの運営を経て、The Blend Innのディレクションを担当する四十路のユニット。

バックパッカーとして海外に出かけるなかで、様々なタイプの人たちが交差し、他人同士が何かしらの影響を与え合っている「宿」の存在やその可能性を感じて二〇〇七年からゲストハウスやシェアハウス^①の運営を続ける株式会社由苑の溝辺佳奈と、自由な発想を生かせるスペースの必要を感じて二〇一〇年より黒目画廊（詩を販売するギャラリ）やOTONARI（案内所兼カフェ）の「場」の実践を行なってきた詩人の辺口芳典が、二〇一三年にお互いのアイデアや経験を組み合わせることで、今までにない楽しさと強かさのある「宿」「場」が生み出せるんじゃないかと動き出した「THE BLEND プロジェクト」。

大阪此花区という下町風情を色濃く残したエリアにて、地元の不動産会社の協力もあり、新築のホテル「The Blend Inn」というカタチで二〇一七年三月に芽を出し、運営をスタートしました。

宿泊施設「The Blend Inn」の設計をタトアーキテクト／島田陽建築設計事務所、併設する文化センター「The Blend Studio」の設計をdot architectsにお願いしました。確かな個性を持った二組の建築家たちに設計を担当してもらい、街が持つ元々の魅力を取り込みながらそこから一歩新しい段階に進んでいけるような建築を要求しました。

私達が「THE BLEND プロジェクト」をスタートする以前のゲストハウス業界では、古いビル等をリノベーションしオープンする宿泊施設が主流でした。溝辺佳奈が宿泊施設を店舗展開する中で、リノベーションでの店舗運営には水回りや階段の場所、部屋の間取りなどがどうしても決まってしまう等、いろんな

制約があることを経験していました。彼女が宿を始めてから一〇年の年月を重ねる中、自分自身にも子供が生まれ、自分を取り巻く環境も変わっていききました。ドミトリールームがメイン（ウリ）のゲストハウスでは、小さな子連れでは泊まりにくく、彼女もこれから年齢を重ねていく時に、バックパッカーのゲスト達との年の差（二〇代の客層が中心）が大きくなってくることに少し不安も感じていました。交流を生み出せる「宿」の魅力は残しながら、自分と年齢の近い客層が泊まれ、他のゲストハウスに真似できないアイデアとは何かを考えている時期に、独自の観点で新築の「場」に可能性を見いだしていた辺口芳典と出会います。溝辺佳奈の思い描く「新しい宿」には、辺口が持つ感性とアイデアが必要であると直感し、辺口の持つ独特の（奇抜ではない）バランス感覚があれば、誰にも真似出来ないアンダーグラウンド・カルチャーとハイ・カルチャーの強いところ優いところを絶妙にミックスした宿を作ることが可能であるとの想いを持ち話し合いを重ね、生まれたのがTHE BLENDのコンセプトでした。

建物をゼロからデザインすることの必要性、街と建築の関係性、新しい感覚と古くから受け継がれてきたもののバランス、細かなデテールやアイデアの追求、音楽や絵画、詩や生活習慣を含めたカルチャーの可能性等を考え、合理的で魅力的な空間づくりを目指しました。

「The Blend Inn」は、世界中から集まる多様な個性が出会い、ローカルの魅力を発掘し、他では味わえない様々なコミュニケーションを提供できる「宿」であると考えています。



③ 辺口芳典（右から3人目）2011年、ドイツ、デュッセルドルフのゲスト・アーティストに選出され滞在制作・エキシビションを行う。「ANTI FOTO」展などに参加。ドイツのメディアに掲載される。



② ゲストハウス由苑のリノベーションの様子。スタッフも参加しながら工場跡・ビル・料亭などを改装し、宿泊施設として運営。



① 宿泊業を始める前は、ゲストハウス文化が根付いているアジアでの旅行が中心でした。旅先の宿でのスタッフが友達みたいで、いろんなところに連れて行ってくれたリー人で訪れても宿に行けば助けてくれる人がいるような感覚に安心感を覚えました。（溝辺佳奈）



⑥敷地南側にある The Blend Studio。



⑤玄関を入ると広がる吹き抜けのダイニング。イベントやワークショップも行われる。



④北側外観。東側私道も同時に整備した。



⑦OTONARI / 案内所兼カフェ (2012年1月～2014年3月)
まちのインフォメーションスペースとして、寄り合いや簡単な食事のできる店舗として運営。



⑧Wonder Town ツアー
(ワンダータウンツアー)。
OTONARI を出発地点
とし、下町の個性的な
風情や個人的なおすす
めスポットを案内する
まち歩きツアー。一般
の方や地域活性化に取
り組む NPO 団体、大
学のセミナーやワーク
ショップ等、個人と地
域との関係を様々な観
点で研究する個人や団
体が学びの場としてツ
アーに参加してくれま
した。

写真④～⑥：新建築編集部



⑩The Blend Inn の Web にて、モデルとして参加してくれている夏目知幸 / シヤムキャッツと辺口芳典のトーク＆ライブイベント「Only Halfway」の様子。



⑨The Blend Inn に行行ったトークイベント「The Blend Meeting」の様子。建築家の島田陽・赤代武志・遠藤克彦・浅子佳英・門脇耕三、京都で新しいスタイルのゲストハウスを運営する矢津吉隆 (クマグスク) 岩崎達也 (マガザンキュウト) が参加 (敬称略)

私達は、多様な個性や文化が画一されることなく多様なまま発信される必要性を感じています。

その方法のひとつとして、文化センターやアーティスト・イン・レジデンススペースが併設された「宿」や「住まい」の提案と実践を行なっています。「THE BLEND プロジェクト」の継続や成長のためには確かな個性を持つ方々との繋がりはもちろんですが、その地域で生まれているリアルな文化に関心を持つ旅行者達が、関西を始めとする日本文化の情報を共有、体験する事ができ、ゆったりとくつろぐこともできるそんな「場」づくりに取り組んでいます。

その一環として「確かな個性」をテーマに様々な職種の方を招いて、定期的にトークショーやライブを行い、シンポルなアイデアで「確かな楽しさ」を生み出す方法を常に話し合い考え、実践しています。宿泊すること自体が有意義な経験とな

るような宿を目指し、「The Blend Inn」の運営を担当する溝辺佳奈をコンポーザーと位置づけ、「宿」という枠も越えて、ディレクションを行なう詩人、フロントや清掃のメンバー、朝食を担当してくれているサンドイッチ屋さん、イベントや空間づくりで協力してくれるミュージシャンやアーティスト、建築家や職人、地元の方々、宿泊してくれる様々な人たちそれぞれが持つ「確かな個性」が重なり合って、「The Blend Inn」という名の新しい「表現」を奏で始めています。

訪れたゲスト達が、その「表現」「宿」「場」に触れて、各々がインスピレーションを膨らましたり、楽しさを感じたり、安らぎが得られるように、「THE BLEND プロジェクト」のアイデアとホスピタリティの質を一日一日高めていきたいと考えています。「The Blend Inn」という「表現」を通して、皆様と出会う日を楽しみにしています。

理事会報告

文責 本会事務局

日時 九月二十日（水）十六時～十八時

場所 本会会議室

出席 理事三八名 監事二名 名誉会長他六名

（1）八月の当期経常増減額は、収入五、四〇一、九八〇円、支出一〇、九六二、七一一円、差引△五、五六〇、七三七円で、本年度累計の収支差引は三〇、二五〇、三六九円を報告して承認されました。

正会員会費収入の充足率が九四％と高率なのは昨年度から一〇〇名減少を想定した予算額を対象としていることが要因です。事業系では、CPD登録費が順調な収入状況で、省エネ技術講習は受講者三六九名、耐震評価業務は一四件で対予算比は各々七〇％です。大阪市高齢者住宅改修費給付事業審査業務は、第一期で一〇〇万円弱の業務委託金の収入がありました。既存住宅状況調査技術者講習は、新規五二五名、移行二四一名で各三回を終了し、対予算比で約五割上回りました。全体では、前期の事業収支差額は約三、七〇〇万円ですが、後期に向けて一層の事業の活性化が望まれました。（2）インスペクション部会運営規定の改定について、既存住宅状況調査技術者講習の実施による関係事項を部分改定して承認されました。（3）文化庁補助事業の大阪府登録文化財ポータルサイトの構築本事業は、府登録文化財に関する情報発信と、観光・防災・災害対策など多岐の機能を備えたサイトを構築するもので、ヘリテージ活動の広報の役割を担っています。サイト構築の事業者決定過程の透明性を保つために、決定に至る経緯等を整理して正副会長・事務局が確認することを条件に本事案を承認しました。

建築相談室から十八

現地相談につながる電話相談

文 橋本頼幸

本会の現地相談は毎年四〇件程度の相談業務を行っています。月平均四件程度の申し込みがあり、また電話相談において現地相談が適切だと相談員が判断した案件には現地相談の案内を行っています。ある月の実際に現地相談を受け付けた案件と、現地相談を案内した案件を、紹介いたします。

①漏水が止まらない

三年前にリフォームをしたが浴室から水漏れが発生。下階に迷惑をかけているため止水をした上で現在使っていない。リフォーム時に不具合の可能性があり、裁判も辞さないと考えている。リフォーム業者は非を認めない。

②外壁塗装と防水の劣化

鉄骨ALCの建物で築三〇年を経過している。四年前に外壁塗装とFRP防水工事を実施したが、塗装の劣化が原因だと思っている。以前雨漏れしたが、今はおさまっているようである。

③ユニットバスのサイズは？

浴室の入れ替えを考えている。ある業者は二二六サイズが入ると言われたが、別の業者は二二六サイズでないと入らないといわれた。面接相談で教えてもらえますか？

④アリが室内に入ってくる

アリが室内に入ってくるので壁の隙間が原因だと思い、リフォーム業者に相談した。外壁全面の塗装工事を勧められ、税別四五〇万円を契約をして現在工事中である。しかし工事が荒く、契約内容にも不信感が出てきた。

⑤耐震補強が正しいか見てほしい

築三五年の住宅を、耐震改修と二世帯住宅にリフォームすることをメーカーに依頼した。

現在、解体がほぼ完了した。解体後、メーカーの現場担当者から補強方法のアドバイスがあったがその内容について曖昧な説明しかなかった。その後メーカーに問い合わせると詳細な計算が必要とのことで別途費用を求められた。

⑥リフォーム代金未払いで訴状が届いた

知り合いの建築士にリフォームを相談していたが、建築士が途中で外れて、紹介された工務店だけでリフォームを行った。竣工時の請求があったが、工事内容に不具合があり補修を求めていたが手直しはできないと回答され、その後訴状が届いた。

⑦外壁を塗り替えたが漏水している

RC造の賃貸マンションを所有している。十年前に外壁を塗り替えたが、現在外壁から漏水をしている。タイル目地が原因だと思っている。耐震性能も不安がある。

⑧屋根のリフォームをしたが漏水した

二ヶ月前に瓦屋根の漆喰・ラバーロック工事を行った。先日雨漏れがあったため業者に連絡してみてもうらうも防水シートが悪いためで責任はないといわれた。

現地相談実施は四件

この中で現地相談を行ったのは、④⑥⑦⑧の四件であり、その他は案内にとどまったものやその後断りの連絡があり実施に至っていません。

③のように面接相談で図面を持参してもらっても現地を見ないと結論が出ないと思われるものは現地相談が適切でしょう。⑦のように複数の心配事がある場合も現地相談は有効でしょう。

トラブルを抱え不安になっている相談者にとつて現地相談は技術面のみならず精神的な負担を軽減していることがあります。帰り際に相談者の表情が緩んでいると、建築は「現場で、顔を見ながら」が原点だと改めて感じます。

編集後記

牧野隆義

私事ですが、最近時間が無い事を理由にお店に出向くことが少なくなりました。ネットであれこれ注文できて、直ぐに手元まで届けてくれる。例えば書籍や文具など、本来ならばお店であれやこれやと楽しみながらショッピングをしてきたことが懐かしく思えます。人は便利になったことが当たり前になると、それが当たり前になり、更にもっと便利なものを求めてしまします。

建築設計に携わる身とすれば、流通の巨大な倉庫の建設やそれにまつわる整備などの事業が増えて仕事には繋がりますが、急激な変化は弊害も伴います。ネットで注文したものが今日の夜に届くことが普通になると、当然、運送トラックが昼夜を問わず走ることになり、便利になる代わりに交通量が増え、渋滞や騒音などの問題が起きます。また、運送・配達ドライバーが忙しすぎて恒常的な過密スケジュールとなり、就労規則違反や事故への懸念など、様々な問題が現実的に起こっています。

循環型社会を目指していく上で、フェイストウフェイスを大事にしたいものです。

建築人 10 2017

監修	公益社団法人大阪府建築士会		
	建築情報委員会		
編集	建築情報委員会『建築人』編集部		
委員長	飯田英二		
編集人代表	荒木公樹		
編集人	河合哲夫	北 聖志	
	黒川祐樹	中江 哲	
	橋本頼幸	丸子勇人	
	牧野隆義		
事務局	山本茂樹 母倉政美		
印刷	中和印刷紙器株式会社		

LAUFEN



洗面器：SL811434-W-112
水栓：K4745V-13 (eye)

living square

革新的なセラミック素材「サファイアセラミック」を使用することで、強度を保ちながら極めて薄い洗面器の成型が実現しました



神戸学院大学附属高等学校 日建設計

中高大連携を掲げる神戸学院が大学ポートアイランドキャンパスの近接地に附属高校を移転、合わせて中高一貫校を新設する計画。「緑・光・風があふれる環境にやさしい校舎」「社会や未来へ『つながる』施設づくり」「ひとりひとりの個性を伸ばし、自分探しができる施設」をテーマとし、明快でフレキシブルな施設構成と特徴ある施設づくりを行った。口の字型プランの中庭に図書室・多目的室・ラーニングスペースを立体的に配置し、それぞれの屋外テラスから各階へとつながり構成。生徒がのびのびと活動できる様々な場所を提供し、学年・クラス、教員・生徒間を超えた偶発的な豊かなコミュニケーションを生みだし、アクティビティを経験できる施設を目指した。片持梁構造とミニマム空調・ライン照明による透明感ある中庭空間、鉄板によるシームレスな外装、校章の梅の花をモチーフとした意匠性のある大架構空間の体育施設などに取り組んだ。

撮影：母倉知樹 第9回建築人賞受賞作品

■プロフィール

児玉 謙（こだま けん）
日建設計
1963年 兵庫県生まれ
1986年 京都大学工学部建築学科卒業
1988年 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了
1988年 日建設計 入社
現在 執行役員・設計部門代表

■建物データ

建築主：学校法人 神戸学院
所在地：兵庫県神戸市中央区港島中町 4-6-3
用途：高等学校
設計：株式会社 日建設計
施工：株式会社 浅沼組
建築面積：5,652.05 m²
延床面積：13,516.63 m²
構造：S造

